

## 水稲の作柄に関する委員会（21年産第1回）の意見

平成21年産水稲の8月15日現在における作柄概況調査に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- 1 水稲の生育は、天候が5・6月においては全国的におおむね平年並みであったものの、7月以降日照時間が平年を大きく下回っていることから、稲体が軟弱徒長気味に生育していると考えられる。  
このため、作柄については、日照不足の影響に留意し、穂数や1穂当たりもみ数を正確に把握する必要があることに加え、いもち病や倒伏の発生状況に留意する必要がある。
- 2 7月中・下旬以降、北海道及び東北北部においては、低温・日照不足で推移していることから、耐冷性品種の作付動向や幼穂形成期から減数分裂期にかけての低温の動向（低温の程度と継続時間）を把握した上で、稔実への影響に留意する必要がある。
- 3 北日本及び西日本の一部地域において、梅雨前線の停滞による集中豪雨により浸冠水したほ場では、その影響に留意する必要がある。
- 4 これまでの全国的な日照不足の影響により、植物体内の蓄積炭水化物も少ないと考えられ、今後も日照不足の傾向が予報されていることから、登熟不良や品質低下への影響に留意する必要がある。  
特に、西日本において温度が高いと予測されており、日照不足の影響が強く現れることに留意する必要がある。

### 【参考】

水稲の作柄に関する委員会委員・専門委員

(座長)	染 英 昭	財団法人中央果実生産出荷安定基金協会副理事長
	秋 田 重 誠	公立大学法人滋賀県立大学名誉教授
	黒 田 栄 喜	国立大学法人岩手大学農学部農学生命課程教授
	近 藤 始 彦	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所稲収量性研究チーム長
	長 谷 川 利 拓	独立行政法人農業環境技術研究所大気環境研究領域主任研究員
	丸 山 幸 夫	国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻教授
	山 岸 順 子	国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科附属農場准教授
	渡 辺 典 昭	気象庁地球環境・海洋部気候情報課予報官
(専門委員)		
	馬 場 利 彦	全国農業協同組合中央会農業対策部長
	米 本 博 一	全国農業協同組合連合会常務理事
	安 藤 勲	全国米穀販売事業共済協同組合常務理事